

平成二十一年歌会始御製御歌及び詠進歌

生

御製

生きものの織りなして生くる様見つつ皇居に住みて十五年経ぬ

皇后陛下御歌

生命あるものかなしき早春の光のなかに揺り蚊の舞ふ

皇太子殿下

水もなきアラビアの砂漠に生え出でし草花の生命たくまじきかな

皇太子妃殿下

制服のあかきネクタイ胸にとめ一年生に吾子はなりたり

文仁親王殿下

大空に放たれし朱鷺新たななる生活求めて野へと飛びゆく

文仁親王妃紀子殿下

地震うけし地域の人らの支へあひ生きる姿に励まされたり

正仁親王殿下

あかとんぼ生受けし池に戻り来ぬ木々もみぢする秋晴れの日に

正仁親王妃華子殿下

生命とは人の道なりと医師はいふ触診をする眼きびしく

崇仁親王妃百合子殿下

生かされしいのち^{かしこ}畏みかりの世を八^や十^そ年^{とせ}あまりはるけくも来し

憲仁親王妃久子殿下

うつし絵の君が微笑みにささへられみ心継ぎて生きむとぞ思ふ

承子女王殿下

わが生^あれし街に見知らぬビル建ちて帰り来しわれの少しとまどふ

典子女王殿下

地に生ふるたんぽぽ見遣る幼子の笑顔を見ては我も微笑む

御製

生きものの織りなして生くる様見つつ皇居に住みて十五年経ぬ

平成五年十二月に現在の御所に移居されて以来、皇居内で多様な生物が互いに影響し合って生きている様子をご覧になりながら過ごされた十五年の感慨を詠まれた御製。

皇后陛下御歌

生命あるものかなしさ早春の光のなかに揺り蚊の舞ふ

御所のお庭で、早春の日差しを受け、蚊柱をなして舞っているユスリカの群れをご覧になり、命あるものの愛おしさ、かなしさをお詠みになった。ユスリカは、水中で育ち、さなぎから羽化し産卵すると、一、二日でその生命を終え、その間は一切餌をとることもない。

皇太子殿下

水もなきアラビアの砂漠に生え出でし草花の生命たくまじきかな

皇太子同妃両殿下は、平成六年十一月、国際親善のためサウジアラビア王国をご訪問になりました。

このお歌は、その際に両殿下で砂漠を歩かれた折、砂漠が果てしなく広がる中で、足元に可憐な花をつけた小さな草が力強く砂地に根を張っているのをご覧になり、その生命力に感動を覚えられてお詠みになられたものです。

皇太子妃殿下

制服のあかきネクタイ胸にとめ一年生に吾子はなりたり

昨年の春、愛子内親王殿下は、学習院初等科にご入学になりました。新しい制服に赤いネクタイをおとめになった内親王殿下が、小学生としての新しい一歩を踏み出されることに喜びと深い感慨をお覚えになつて、皇太子妃殿下がお詠みになられたお歌です。

文仁親王殿下

大空に放たれし朱鷺新たなる生活求めて野へと飛びゆく

秋篠宮殿下は、妃殿下とご一緒に、平成二十年九月二十五日、新潟県佐渡市において行われた「トキ放鳥記念式典」にご臨席になり、両殿下はトキを一羽ずつ放されました。

中国の江沢民主席から天皇陛下に贈呈された朱鷺は、佐渡の飼育下で百羽以上に増殖し、それらの朱鷺のうち十羽を試験的に放鳥した記念式典の折、朱鷺が飛んでいる様子をご覧になりながら、お感じになったことをお詠みになったものです。

文仁親王妃紀子殿下

地震うけし地域の人らの支へあひ生きる姿に励まされたり

秋篠宮妃殿下は、殿下とご一緒に、平成二十年七月二十日、大地震により被災した岩手県と宮城県にお成りになり、避難所や仮設住宅などへ避難されている方々をお見舞いされました。

その折、多くの被災者の方々が、厳しい状況の中に置かれながらも、おたがいに支え合い、困難にも立ち向かっていく姿に触れられ、その姿に励まされた時の様子をお詠みになったものです。

(参考) 両殿下がお見舞いのためご訪問された施設

岩手県一関市厳美公民館山谷分館

宮城県栗原市みちのく伝創館

正仁親王殿下

あかとんぼ生受けし池に戻り来ぬ木々もみぢする秋晴れの日に

お歌の「池」については、宮邸内のお庭にある池です。

正仁親王妃華子殿下

生命いのちとは人の道なりと医師はいふ触診まなこをする眼まなこきびしく

崇仁親王妃百合子殿下

生かされしいのちかしこ畏かしこみかりの世よを八十年やそとせあまりはるけくも来し

平成二十一年、現在のご心境をお詠みになったものです。

憲仁親王妃久子殿下

うつし絵の君が微笑みにささへられみ心継ぎて生きむとぞ思ふ

「宮邸内のご霊舎にて、宮さまとともにしばらくの時間を毎朝夕過ごします。そこにある宮さまのやさしく微笑んでいらつしやるお写真を見上げながら、思うことを歌に詠まれたもの」とのことです。

承子女王殿下

わが生あれし街に見知らぬビル建ちて帰り来しわれの少しとまどふ

承子女王殿下には、昨年、イギリスでのご留学生生活を終えられ、ご帰国になられました。東京の街並みの変貌に驚かれ、その時のお気持ちをお詠みになられたものです。

典子女王殿下

地に生ふるたんぽぽ見遣る幼子の笑顔を見ては我も微笑む

典子女王殿下には、現在学習院大学文学部で学ばれておられますが、この歌は、昨年（平成二十年）の春、大学の構内で母親と手を繋いで歩いていた小さな子を見たときのことを詠まれたものです。

召人 谷川健一
陽に染まる飛魚の羽きらきらし海中わたなかに春の潮うしほ生れて

選者 岡井 隆

野の草の騒立ちやまぬたましひも我が生きてある証あかしとおもふ

選者 篠 弘

われよりも生き長らへむ古書店にわが若書きの小著が並ぶ

選者 三枝昂之

この丘に生きるものみないとほしく木の実がこぼれ茶の花が咲く

選者 河野裕子

母がまだ生きぬし頃のこゑがする日向に出でてはいと振りむく

選者 永田和宏

生きてあるわが身の冷えはゆふぐれの柿の古木の火ほめきにもた凭る

選 歌 (詠進者生年月日順)

青森県 中村正行

ほのぐらき倉庫の隅に生きつづく古古米二百俵の穀温はかる

東京都 亀岡純一

「麦の種子たね蒔まき終へたり」と日記書く今日を生きたる今日の一行

山形県 木村克子

梅雨晴れて校舎の窓あの開くが見ゆ一年生は椅子に慣れしや

栃木県 阿久津照子

角膜は賜はりしもの今日よりはふたつの生を生きむと思ふ

ブラジル国
サンタカタリーナ州

筒井 惇

エタノール生産工場中なかにして甘蔗畑よもの四方に延びゆく

神奈川県 水口伸生

竹筒おほなみにらふそく灯り大地震おほなみの生者と死者は共に集へり

埼玉県 菅野耕平

大空に春の余白を生みながら雲のひとつとなる飛行船

千葉県 出口由美

生命とはあたたかきもの採血のガラスはかすかにくもりを帯びぬ

千葉県 丸山翔平

夕風のなか走り出す僕が生む向かひ風受けまた加速する

福岡県 北川 光

熱線の人がたの影くつきりと生きてる僕の影だけ動く

佳 作 (詠進者生年月日順)

群馬県 佐藤克巳

ふじ棚にちに巢作りをせしきじばとの親子と共に生きる日にち

鳥取県 土江康一

今まさに生れくる命救はむとドクターへりは隠岐へ飛びたつ

宮崎県 赤崎敏子

あしたにも干上がりさうな沼の辺に蝌蚪くわとら生きをり頭つを寄せ合ひて

京都府 安久菊枝

板書するチョークをぐつと握りしむ生き生きと蹴る胎動ありて

茨城県 仲野芳蔵
初とりの七十五箱のそら豆を生産台帳添へて出荷す

京都府 五十嵐弘治
百年を町屋大工に生きて来し爺さま親父そしてわたくし

北海道 奥泉一子
帰りゆく日のあるなれやえとろふ択捉島ふのわが生れし村トシルリの地に

東京都 小林諄子
アナトリアの谷ふかく日は沈みたり星あ生るるまで友よ待たなむ

茨城県 丹波陽子
二枚目に渡りてクレヨン走らせる児は生きいきとうなぎを描けり

栃木県 藤倉美知子
還り来し父ありてこそわが生まれしと思ふ今日の日終戦の日は

福島県 小貫信子
ペンキ塗りはわが生業ぞ命綱肩に掛けつつ梯子をのぼる

香川県 藪内眞由美
田に水のつぎつぎ張られ見はるかす讃岐平野に空生まれたり

群馬県 高橋千恵
先生と呼ばれた君も好きでしたボタンのとれた白衣をたたむ

京都府 宮本絵佳
「大丈夫」とあなたが言ってくれたから生きてゆけると思つた思へた

京都府 邊本 茜
気がつけばあなたのことを考へて生まれてゐたのは小さな感情

大阪府 林 沙恵
人生はまだまだ長いと思ひつつとても短い今日の一日